Topic

COLUMN： 先生紹介 ▶ 平下　博喜（今福教室・関目教室）

はじめまして。今福教室の集団クラス、関目教室では個別クラスを担当しています平下博喜です。私は小学校５年生から中学校３年生まで関目教室に通っていました。そして大阪国際大和田高等学校に進学し、今は大阪市立大学に在学中です。

今回、私は自分の高校受験での経験から伝えたいことと、賢くなる子について書かせていただきたいと思います。

私が中学生の時、恥ずかしいことに内申点というものを軽く見ていました。模試などの成績と比べると内申点が低く、私が目指していた公立高校は受験することすらできずに私立専願となり、すごく悔しい思いをしました。たぶん、生徒の皆さんの中にも内申点を軽く見ている人が少なからずいるはずです。私と同じ悔しい思いをしてほしくないので言いますが、提出物を期日通りに出し、授業態度に気をつけるなど当たり前のことをしっかりとし、内申点で困ることの無いようにしてほしいと思います。

次に、賢くなる子ですが、高校受験、大学受験と年齢が上がる毎に勉強の量は増えます。そのため全てをやっていては頭がパンクしてしまいます。そこで大事なことは、必要なものを見極めることです。もう一つ大切なことは、一度自分の頭でよく考えてみることです。質問することも大事ですが、全ての科目は思考力（考える力）が無いと始まらないので、思考力をつけるためにもよく考えることが必要です。最低でもこの２つが賢くなるために必要だと私は思います。

今回は少し堅い話を書きましたが、普段の私は冗談を言ったりするのがとても好きで、皆さんとの授業もとても楽しみにしています。これからも、一人の先輩、一人の講師として、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

坪田のちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE　坪田　陽一（諸口教室）

登山家　野口健氏のお話

先日、登山家の野口健氏の講演会に行ってきました。

「誰？」という方のために簡単にプロフィールを紹介しますと、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立、その後エベレストや富士山などのゴミ問題を解決するために清掃登山を始め、その他日本兵の遺骨収集や最近では熊本の震災の支援活動など、幅広く活躍されている方です。テレビにもよく出ていたので知っている方も多いかと思います。

講演は娘の通っている高校で実施されたもので、家内が最近登山にハマっていることもあり、半ば強引に連れていかれたのですが、行ってよかったと思いました。話の内容は多岐に渡り、中には「エベレスト登山中、岩に並んで座っている人達がいたので、挨拶しようと見たら、全員座ったまま氷漬けで亡くなっていた」等、なかなか衝撃的な話もありました。ただ今回は「ちょっといい話」ですから、生徒にも伝えたいエピソードを２つほど紹介したいと思います。

１つ目は、登山を始めるきっかけの話。中学生の頃は落ちこぼれで、高校に入って間もなく、先輩との喧嘩で１カ月間の停学処分を受けてしまいます。ところが、処分中ふと入った書店で目にした植村直己氏（注：世界で初めて五大陸最高峰の登頂に成功したすごい人）の著書「青春を山に賭けて」を読んだのが転機となります。その本には、何か高い目標や理想があるわけではなく、いつも「今の自分にできることは何か」を考えながら、コツコツと取り組んだ結果、様々な冒険をやり遂げてきた植村氏の姿がありました。そこから「今のどん底の自分でも、やれることをコツコツやっていけば何者かにはなれるんじゃなかろうか」と一念発起。翌年にはヨーロッパ最高峰モンブラン登頂、その翌年にはキリマンジャロ…と、約10年かけて7大陸最高峰登頂に成功、今に至るということです。

「先輩との喧嘩がばれなければ」「停学処分を受けなければ」書店でその本を手にすることもなかっただろうし、「停学中でなければ」感銘を受けることもなかっただろうとおっしゃっていました。停学で自分の人生を真剣に考える時間が与えられたからこそ、本の中の植村氏の生き様に心が揺さぶられたのだろうと。逆境の中でこそ、人は色々なことに気づき、成長できるのだろうと思います。

２つ目は、最後の質疑の時間。それまでの話の中で「若さと勢いと運、この３つがあれば大抵のことはできてしまう。その後が問題」という野口氏の発言があり、それを受けて生徒の一人が「初めの勢いがなくなってきたとき、どうすれば勢いを取り戻せるのか」と質問。「うーん、難しいね」と言いながら、それでも2つほどアドバイスをしていました。1つは「いったんやめる」。ただ全てをやめてしまうのではなく、別のことに一生懸命取り組む。そうすることで気分が変わったり行き詰っていることに突破口が見えたりする。もう１つは、「仲間をつくること」。清掃登山も、大勢の人たちに協力してもらうことで続けていくことができた。相談したり、励ましあったりすることで新たな活力を得ることができる。ということです。

カイチでは、部活引退後の3年生が毎日のように自習に来ています。その中には、「伸び悩んでいる」「目標に届くか心配」など、悩みを抱えてしまう子もいます。そんな時、まずは植村氏や野口氏のように「今自分にできること」をコツコツやっていきましょう。そして先生や親、友達など、自分の「仲間」に相談すること。どうしても行き詰まり、しんどくなったら「いったんやめて」、別のことに取り組んでもいい。そうやって壁にぶち当たる時こそ、人は大きく成長できるのだと思います。壁を越えられるように、カイチの先生達も一生懸命サポートします。共に乗り越えていきましょう。

カイチからのお知らせ

- ■10月22日(日)は珠算1級～3級の検定試験です。21日(土)は直前練習を行います。時間は授業内でお知らせします。
- ■10月29日(日)は珠算段位検定試験です。10月28日(土)は直前練習を行います。時間は授業内でお知らせします。
- ■11月4日(土)は中学3年生対象に進研模試を実施します。

発行／株式会社 開智総合学院　〒536-0004 大阪市城東区今福西2ー1ー8モデラートWASHIMI201　TEL.06-6939-0008

Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

October 2017 Vol. 62
毎月10日発行

【本　部】
城東区今福西2ー1ー8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【今福第２教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467

学ぶことは生きること
～フィリピンへ社員研修に行きました

高木 秀章（塾長）

8月27日～31日の5日間、フィリピンへ社員研修に行ってきました。研修の目的は、日本より進んでいる英語教育とアクティブラーニングを用いた指導について学ぶことと、それらの教育が実施される背景としての社会状況がどのようなものなのかを知ることでした。

学校見学の様子は、後の熊谷先生の記事に詳しく取り上げられていますので、私は、カトリーナ先生や恭子先生のご家族、知り合いの学校の先生方、塾の先生、会社経営者の方達からお聞きした、フィリピンの社会状況について私が調べた内容を添えながら、お伝えしたいと思います。

▲近代的な建物とバラックが入り交じる町並み

近代的な高層ビルやショッピングモールとバラック。これらは、計画的に明確な区画で区切られているのではなく、大きな道路や橋をまたいで、場合によっては狭い道路と向かい合わせで、混在しているイメージです。

フィリピンの所得構造は0.1%の年収1800万円世帯、25.2%の年収180万円世帯、74.3%を占める年収48万円世帯、12.6%の年収30万円世帯、7.9%のそれ以下の世帯で構成されています。上位と下位で60倍近くの格差があり、それが同時に物の値段の格差、教育の格差となっています。これだけ格差が大きければ、平均所得を聞いても誰も答えられないのは納得です。ランチミーティングで話す中でも、格差意識はフィリピン人の中で明確に感じられました。

▲ランチミーティングの様子

フィリピンの小学校就学人数は1390万人に対して高校就学人数は680万人。ハイスクールへは半数しか進学しません。フィリピンでは子供も大切な労働力であり、経済的な理由で学業を諦める生徒達が多い。政府は優秀な生徒には奨学金制度を用意していますが、対象となる生徒はごく僅かです。

人気の職種としては、コールセンター（増加に伴い就業率が改善）、エンジニア、英語教師が挙げられますが、どの職種にもスキルが必要であり、きちんとした教育を受けていることが欠かせません。平均年齢が23歳といわれるフィリピンでは労働人口が多く、就職は激戦です。また、社会制度として6ヶ月の試用期間が設けられており、この期間の最低賃金設定（月7,000ペソ日本円で月14,000円）がないため、企業側はこの期間で優秀な人材以外を解雇し、また低賃金で別の人材を再雇用することで人件費の圧縮を行うことが通例となっています。

よってフィリピンでの正社員としての就職は非常に難しく、高学歴ではない人達は、賃金の高い外国に出て働くことでしかチャンスを掴めず、また、優秀なトップ・オブ・ザ・トップ層は、アメリカやシンガポールで就職をし、高い賃金を獲得する（Brain Drainという社会問題となっている）という構図となっています。

優秀な人達が海外へ流出することや、主力産業であるコールセンターが近い将来自動化することを考えると、自国の産業がないフィリピンの資源は、人口の増加に伴う「労働力」のみだと考えられます。

所得格差による教育格差と知識層の流出が、自国産業の衰退を生み、国家間での資本と労働という枠組みの中で、これらの格差は更に広がっていく。

▲カトリーナ先生（右）ミシェル（中央）ミシェルの旦那さんのパート（左）

就業人口の急激な縮小が確定している日本でも、やがて所得格差が広がり、それが教育格差となり、次世代で更に大きな格差を生む可能性があります。

「フィリピンで生き抜くために必要な力は何か？」かと、現在、仲間と会社経営をしているカトリーナ先生の娘のミシェルに聞いてみました。彼女は「何でも調べ、読み続けること」「自分に関係がないことでも、学んでおくこと」と答えてくれました。

格差社会の中で生き抜くためには、「よく調べ、よく読み、視野を広げ、学ぶこと」

日本では、皆が、ほぼ同じように学校で学べ、全ての子供達に平等に進路を選ぶ機会としての受験制度が設けられています。そこで問われるのは、各自の「努力と工夫」だけです。そのような意味で、受験は、自分の力で自分の人生を切り開くチャンスだと言えます。

しかし、受験は、進路を決めるという意味合いと同時に、ミシェルが教えてくれた、社会を生き抜く力となる「学び続ける力」を身に付ける大切な機会でもあります。

フィリピンの学校見学の中で特に際立っていたのは、子供達の積極的に学ぶ姿勢。手を挙げる子も多く、物怖じせず自分の意見を述べます。その姿勢を見るにつけ、彼らのこの前向きさは、格差を目の当たりにしているからこそ、学ぶことで自分の人生が開けるという明確な目的意識を持っているのではないかと、考えさせられました。

▲公立小学校にて。とにかく子供達の姿勢が積極的!

「学ぶことは生きること」

あまりにも当たり前ですが、日本に住む私達は、豊かさ故に忘れかけているのかも知れません。

子供達の日々の勉強が社会で活きる実学になるよう、私達も努力を重ねていきたいと思います。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート

受験対策英語講座
間違うことを恐れず、とにかく話す！ 書く！ 指導

マーク アイバン ソリアノ （トーキングキッズ担当）

I started classes in May of this year. The classes are held four times a month, so it has been 4 months now from the beginning. I was very excited to meet the students and a challenge for me to handle students who have different personalities and levels. Some are very active and some are shy. Other students have a little background in English and some students are beginners. My lesson is focused to help students learn, familiarize and interact in English. I teach classes from 1st year to 3rd year junior high school students. Most of my students are in Eiken level 3, 4 and 5.

In my class, I teach them the four main parts of English. "Speaking, Reading, Writing and Listening" I prepared speaking activities like giving them "self-introduction" activity. For example they have to introduce themselves in front of other students, what they like and what they want to be. This may sound easy but doing it in a different language is difficult. Students were very shy at first but doing this kind of activity helped them to get rid of their shyness and gain confidence.

The writing part is about writing opinions about topics from school and every day activities. For example I asked their opinion about which is better: "school lunch or bento?" Students had a hard time because they have so many ideas they have to translate in English. But I encouraged them to write in simple English and it helped them compose sentences to express their opinions. These kinds of exercises are supposed to be on the Eiken and entrance exams for high school and point allocation is high. That's why students need such training to pass the examination.

The reading part, I give the students challenging reading exercises that is a little difficult. For example a short story about the "life of a teenager". Students find it difficult to read because they are not familiar with some words. So I helped them and gave examples of the words and explained it to them. This exercise also helped them to practice for reading part of Eiken and exam for high school.

For the listening part, they will listen to people who share their stories. For example "A Day at School" a story about a foreign student who went to school in Japan. Some students also had a difficulty because they can't remember the words that they listened to. I told them to write down what they listened to because it will help them understand the story and be able to answer the questions. Listening is an important skill in English because this will help you understand and communicate in English.

One of the policies in the class is I encourage the students to speak in English all the time. Speaking English in expressing themselves will help them with their self-confidence. Because I believe to help them to become confident is to get rid of their shyness. I really want students to understand that they should not be afraid of failure to speak. The more mistakes you make in learning English, the more you learn.

Now after 4 months, I am very happy about the progress of the students. I can see that their confidence level is getting high. They are not shy anymore. Some students talk to me in "English" after class about simple topics about sports, food and hobbies. And that makes me happy to know that they are doing better. As a teacher I feel very proud when I know that they learned from me. And one of the class goals to achieve is to prepare them for "Eiken" test for the "high school examination" and to help them become confident English speakers.

I promised myself that I am going to do my very best and work hard to accomplish my goal to help the students to pass their "Eiken" exam and be better in English.

今年の5月から中学部受験対策英語講座が始まりました。このクラスは月に４回授業があり、すでに４か月が経過しました。生徒に会えることにとてもワクワクしますし、性格が違う、レベルも違う生徒を教えることは私にとっての課題でもあります。積極的な生徒がいれば、内気な生徒もいます。英語を習ったことがある生徒、初めての生徒もいます。

レッスンでは生徒が英語に慣れ、親しみ、学ぶことに重点を置いています。中学１年生から３年生まで、英検５級から３級のレベルの生徒達を教えています。

授業ではスピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの４つの主要部分に着目し、スピーキングでは「自己紹介」をさせています。他の生徒の前で好きなことや、将来何になりたいか等を話させます。簡単なように聞こえますが、彼らにとって日本語以外で話すとなると難しいのです。生徒は、当初とても恥ずかしがっていましたが、このように人前で話す機会を設けることで、恥ずかしいという気持ちを払い除け、話せるようになってくると自信がついてきます。

ライティングでは学校や日常生活のことを英語で書きます。例えば「学校の給食と弁当はどっちがいいか」。生徒達は、自分の意見や考えがたくさん頭に浮かぶのですが、それを英訳するとなると苦戦します。簡単な英語でもいいのでとにかく書くように指導します。それが自分の意見を述べる練習になるのです。このような英作文は、英検はもちろん高校入試にも出題されており、配点も高いので練習が必要不可欠です。

また、リーディングでは少し難しい上級の問題を解かせています。"life of a teenager" のような短編小説を題材にします。知らない単語があり、読むのが難しいこともあります。そんな時は日本語をすぐに教えるのではなく、単語の意味や例を挙げて説明します。この練習も英検や高校入試の長文読解に役立ちます。

そして、リスニングでは様々な人達のストーリーや経験談を聞きます。例えば"A Day at School" という外国人の生徒が日本の学校に通う話です。聞き取った単語を覚えておくことが難しい生徒もいるので、聞き取れた言葉を書き留めさせます。書き留めておけば、やがて話を理解し答えられるようになります。英語で理解し、やりとりするのに、リスニング力はとても大切です。

授業中、生徒達には何でも英語で話させるようにしています。自分の気持ちを英語で表現していくことが生徒達の自信につながります。自信をつけることにより、恥ずかしいという気持ちを取り除くことができると考えています。間違うことを恐れていては英語を話せるようにはならないし、間違うからこそ覚えられることがあるということを生徒達に分かってもらいたいのです。

４か月経った今、生徒達の英語力が上達していることをとてもうれしく思います。生徒達の自信が高くなってきたのがわかります。もう臆病ではありません。放課後にスポーツ、食べ物、趣味などありふれた話を「英語」で話してくれるようになりました。彼らの成長が感じられてとてもうれしいです。先生として彼らが私から学んでくれたことが誇らしいです。英検と高校受験の対策を行い、堂々と英語を話せるようにすることがこのクラスの目標です。

生徒達を英検に合格させ、英語を上達させる目標に向かってベストを尽くすことをお約束します。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

フィリピン研修レポート
～世界を見れば視野が広がる～

熊谷　真宏（今福教室）

フィリピン研修について、冒頭の塾長の記事に続いて、私が感じた首都マニラの町並みと、学校見学についてお伝えしたいと思います。

今回、私達が訪れた首都マニラ。ISをはじめとしたテロ事件が世界中で起こっていることや、フィリピン南部の危険レベルが１（渡航に当たり十分な注意が必要）であることもあり、正直不安な面もありましたが、いざ現地に降り立ってみると、私達が想像していたものとは異なる世界がそこにはありました。

まず印象的だったのが、空港からホテルに向かう途中で見た街並みです。マニラには高層ビルが幾つも立ち並び、建設中のビルも数多くあります。日本の都会にあるような大きな看板広告もありました。ユニクロの大きな看板を見たときにはとても驚かされました。高層ビルが姿を現す一方で、ほんの少し歩けばボロボロの家が立ち並びます。また、富裕層が暮らすエリアは高い場所にあり、壁で仕切られていました。これらを見ていて感じたのは、フィリピンでは富裕層と貧困層の区別がとても明確であるということです。

例えば、マニラには数多くのショッピングモールがあり、隣のモールまで歩いて行けるくらい近い距離に隣接しているところもあるのですが、それぞれのモールにおいて、ターゲットとしている顧客の層が決まっているようでした。私達が訪れたどのモールにおいても、顧客層はおよそ中間層以上で、貧困層と思われる人たちは全くいませんでした。また、あるモールでは高級ブランド店が立ち並び、明らかに富裕層をターゲットとしていました。日本ではショッピングモールにおいてこまで明確に顧客層が区別されているということはないので、先進国と発展途上国のちがいを肌で感じました。

５日間の日程のうち、最初の２日間はフィリピンの祝日であったこともあり観光と、様々な方達と交流を深めるランチミーティングを行い、次の２日間では今回の研修の一番の目的である学校見学に行ってきました。訪れたのは、私立の男子校、私立の女子校、そして公立の小学校の全部で３校です。どの学校にも共通していたのは、パワーポイントを使うことでスピーディかつ分かりやすい授業を展開していたことと、日本で今まさに取り入れられているアクティブラーニングをメインに行っていたことです。

例えば、小学４年生の英語の授業では５つのグループに分かれ、教室内にある５つのステーションを順番にまわり、それぞれのステーションに置いてある問題を全員で協力しながら解いて回るという内容の授業をしていました。この取り組みは、その日に習った内容の理解度を測るためだけでなく、チームワークの大切さやリーダーシップなどを子供達に学ばせるという意図もあるそうです。ちなみにこの学校は、フィリピンの全国学力テストで１位を取った実績を誇ります。優秀な生徒が育つというのも、授業を見て確かに納得でした。それぞれの授業において枠にとらわれない様々な教え方があり、学ぶべきところが多くあったのと同時に、教える立場として非常にいい刺激を受けました。また、フィリピンの学校の先生達はとても強いpassion（情熱）を持っていて、国が違っても、「子供達を伸ばしてあげたい」という気持ちは同じなのだなと思いました。

また、授業見学後の先生達との質疑応答の時間に、いくつかの質問に対してたびたび出てきた「子供達の様子や能力によって、状況は変わり、対応も変わる」というのは教育の本質だと感じました。「先生が生徒に合わせる」との言葉もありました。私たちは塾であり、カリキュラム等はどうしても画一化していかなければならないと思いますが、その中で目の前の子供達の普段の様子や授業での反応をよく観察し、柔軟に対応する必要があることを再認識しました。カイチでは以前からこの点は意識して行っているつもりでしたが、より意識して取り組もうと思います。

また、もう一つ共通して出てきたのは「保護者との信頼関係」でした。フィリピンの学校では、PTAと教員との間でしっかりと情報共有を行い、保護者・生徒から教員への信頼は厚いそうです。また、子供達は親の言うことを聞かないとしても先生の言うことは聞くとのことでした。また先生から厳しい指導があったとしても、親に連絡し、しっかりと話をしておくことで信頼関係は崩れず、むしろ感謝されることの方が多いとのことでした。これは私達塾にも当てはまることだと思うので、日頃の保護者への連絡、面談をおろそかにせずにしていきたいと思います。

今回の研修を通じて得るものは非常に大きかったと思います。私自身、教える側の人間としてもそうですが、一個人としても視野を広げることができました。ここで学んだことを、生徒の皆さんのために少しでも役立てられるよう、これからも努力し続けていきたいと思います。